

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果

達成度（評価）

- A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	唐津市立湊小学校
1 前年度 評価結果の概要	・授業の導入時の工夫や考えを可視化する方法などにより、児童と学習との距離を近づける指導法について道すじを見つけたことができた。今後、継続、深化を図っていく。 ・年間5回の生活およびいじめに関するアンケートを行い、児童の状況の把握に努めた。このため、早い段階での対応を行うことができた。本取組を継続するとともに日常的な指導も充実を図っていく。 ・地域の人材や地域の各種団体と連携した活動は、制限が多くならざるを得なかった。できる方法を検討し、地域の方との交流を今後も継続していく。
2 学校教育目標	豊かな心をもち生き生きと自分の「よさ」を発揮できる湊っ子の育成
3 本年度の重点目標	① 児童の主体性を伸ばす学習指導の在り方を追究し、学力向上を図る。 ② 充実した学校生活を送ることができるようにする。 ③ 地域のひと・もの・こととつながり、地域と共に歩む学校をつくる。

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上 ○児童の目標貸出冊数を達成させる。(低学年100冊100%・中学年80冊100%・高学年60冊80%)	・県調査と全国調査の結果分析を詳細に行い、研修に生かす。 ・図書室の活用や家読を推進する。	B	・学習規律・家庭学習に関する児童の意識調査を2回行った。前回の調査と比較して今回はほとんどの項目で前回の得点率を上回っていた。 ・12月現在の児童の目標貸出冊数の達成率は低学年31%・中学年70%・高学年88%である。3学期に達成できるように支援していく。	B	・県調査と全国調査の結果分析の研修を行い、全校で共通理解して取り組みを行ったが、県の学習状況調査、CRT学力検査の正答率において改善すべき課題が残っている。取り組みの継続と強化が必要である。 ・全学年が目標貸出冊数を達成できたが、家庭での読書の推進ができなかった。	B	・本への親しみは、家庭の読書環境に依るところも大きいので、保護者を含めた啓発を今後も継続していただきたい。	
	○児童が主体的に学ぶことができる授業の実践	○学習に対する意識調査において、関心及び主体性に関する質問において、肯定的に回答した児童の割合を70パーセント以上。	・授業の在り方について工夫を行い、児童が自ら学ぶ力を高める。 ・児童が学ぶ目的や学びへの意識向上のための工夫を行い、学ぶ力を育む。	B	・3年生、4年生において全校授業研究会を実施し、他の全学級においてもグループでの授業検討会を行った。 ・学習に対する意識調査を5月に実施した。意欲に関わる質問について肯定的に回答した児童の割合は9割以上、学習の主体性に関わる質問について肯定的に回答した児童の割合は8割前後であった。	B	・授業研究会での実践とその振り返りを統轄し、研究冊子を作成することができた。 ・学習に対する意識調査を1月に実施した。意欲に関わる質問について肯定的に回答した児童の割合は9割以上、学習の主体性に関わる質問について肯定的に回答した児童の割合は8割以上であった。	B	・「読み」「書き」「計算」といった基礎を徹底することを望む。また、子供たちに「できた」喜びを感じさせる授業を望む。	
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳科の「生命尊重」に関する授業を年間1回以上行う。 ○身の回りの人に「ありがとう」の気持ちを伝える回数を増やす。	・教育の日等に道徳授業の公開を行う。 ・体験活動を通して、友だちとの関わりや地域の人とのふれあいの機会をふやす。	A	・6月の「唐津市教育の日」に全学級が、保護者を対象とした授業公開を行った。 ・神集島の清掃活動や町探検、高齢者とのニューススポーツ体験など、各学年で地域の方と交流する場を設定し、実施することができた。	A	・生徒指導部のアンケートを基に、児童の心の状態の把握を行った。気になる児童には話を聞くなど、その都度、対応を行った。 ・全学年、予定していた神集島への訪問を実施することができた。また、独居のお年寄りの方に年賀状を出すなど、できるだけの交流を行うことができた。	A	・心の教育は、とても大切だと思う。授業参観で、「生命尊重」に関する授業を行い、保護者にもいっしょに考えてもらおうというのは、よい取組である。	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○生活アンケートで「いじめをゆるさない」気持ちを持つ子どもが85パーセント以上を目指す。	・いじめ防止に取り組み、いじめ発見や対応について職員連絡会や職員会議等で気になる児童の情報交換を行う。	A	・生活アンケートで「いじめを許さない」気持ちをもつ子どもが85%以上を達成することができた。 ・アンケートにおいて、いじめを受けた見たという児童に対しては個々の聞き取りをして対応できた。職員連絡会でも全職員で共通理解を図り、学級担任だけでなく、学校全体で対応している。	A	・年3回の生活アンケートで「いじめを許さない」気持ちをもつ子どもが85%以上を達成することができた。 ・アンケートにおいて、いじめを受けた見たという児童に対しては個々の聞き取りをして対応できた。年間を通し、職員連絡会でも全職員で共通理解を図り、学級担任だけでなく、学校全体で対応している。	A	・陰湿なものは感じられない。年間5回のアンケート調査およびその後の指導の効果であろう。ただし、小さなさかいや悪口が、発展する可能性があるという学校の認識は、その通りだと思う。近所で子供たちの姿を見かけたときは、その様子を見ておく。	
	◎児童が夢や目標をもち、その実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	○キャリアパスポートの記述を進め、将来の夢や希望に関するアンケートに肯定的な回答をした児童(小学5・6年)の割合が80%以上。	・各種活動で、児童に活動の見通し、学びの振り返り、及び自らの達成感を感じさせる活動を仕組む。	A	・学習状況調査の結果によると、将来の夢や希望に関するアンケートに肯定的な回答をした児童が9割以上であった。諸活動のふり振り返りやキャリアパスポートの活用を通して、自己の成長を見つけていくようにする。	A	・各種活動を実施する中で、キャリアパスポートを活用し、見通しとふり振り返りを行った。感想の中に、達成感を感じた記述が多かった。学年末のふり振り返りでは、多くの児童が自己の成長に気づくことができた。	A	・上学年の姿を見て「こうなりたい。」という具体像を描けるような児童集会や全校朝会の場であってほしい。近い将来、遠い将来の両方について、今後も問い続けていただきたい。	
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成 ●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○望ましい生活習慣の形成に向けて、県の食育月間6月11日にあわせて、1週間生活習慣アンケートに取り組み。達成率を、各学年平均70%を目指す。 朝食を毎日食べる児童の割合を、90%を目指す。 ○食の自己管理能力を育成するために、おにぎり弁当の日を設定する。	○生活習慣アンケート(早寝・早起き・朝ごはん)を実施し、1週間生活記録をとる。できていない児童は、振り返りを行う。職員会議等で気になる児童について情報交換を行う。 ○食育の授業を通して、食事の大切さを理解させる。 ○おにぎり弁当の日を1年間に3回行い、食に対して興味をもたせるとともに、食の自己管理能力の育成を図る。	A	・生活習慣アンケートの結果、6月は各学年平均が70%に満たない学年もあったが、全校平均は、71%と目標を上回ることができた。11月は、各学年平均と全校平均共に、70%届かず目標達成とはならなかった。しかし、朝食を毎日食べる児童の割合は、6月で100%・11月で97%と目標を達成することができた。 食育に関しては、現時点で2回実施できており、いずれも児童の感想に、「1人で作れるようになった」「など興味を持ち、積極的に取り組んでいる。	A	・生活習慣では、自分で就寝起床時間を決めるがその目標時間が遅く、今後は、生活習慣アンケートを実施する前に、睡眠や起床時間を考えるように指導する。 ・食育のおにぎり弁当の取り組みでは、3回予定通り実施することができた。回数を重ねるごとに低学年でも「自分で作った。」という児童が増えてきた。子どもたちがおにぎり弁当をとても楽しみにしており、工夫した点や頑張った点を自ら話してくれるなど、食への興味関心も高まってきていると感じる。	A	・「早寝、早起き、朝ごはん」について、朝ごはんは、ほぼ全員が毎日喫食できているということに安心した。学校の説明の通り、早起きは早寝と連動するものなので、ゲームやスマホなどの指導と一体的に促した方がよい。	
	○たくましい体づくりの推進	○持久走大会に向けて、持久力の向上を目指す。持久走カードの達成率80%を目指す。	・持久走大会の4週間前から、業前での練習を始め持久力の向上を目指す。 ・持久走カードを使用し、運動場50周を目標に取り組み、達成率80%を目指す。	A	・大会4週間前から、朝の時間に5分間走を行い、持久走カードに記録した結果、運動場50周の目標は達成できた。中休みや昼休み、放課後に走っている児童もあり、体力の向上にむけ真面目に取り組んでいた。	A	・4週間前から、朝の5分間走にきちんと取り組み、持久走大会では、精一杯の力を出すことができた。縄跳び週間においても、新しい技に挑戦したり、長く飛んだりすることを通して体力の向上を目指すことができた。	A	・持久走大会に向けた取組がうまくいったことで、よかった。日頃の外遊びも盛んだということに安心した。コロナに負けない体力づくりを今後も期待する。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・月ごとに在校時間上限遵守の達成の状況を職員に知らせ、意識の継続化を図る。 ・金曜日を定時退勤日とする。	A	・時間外在校時間の上限を上回る職員はいない。効率的に仕事を行う意識の定着が見られる。 ・金曜日の定時退勤もおおむね実施できている。	A	・時間外在勤時間の上限を上回る職員は、年間を通して、ほぼいなかった。 ・金曜日の定時退勤もほぼ実施することができた。一定の時間内に仕事を終えようとする意識が高まった。	A	・先生方の仕事は、「終わりがいい仕事」と言われるが、まったくその通りだと思う。その中で、勤務時間の超過を抑えられているのは、能率的に仕事をしてもらえることの表れだと感じる。	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○地域とともにある学校づくり	○地域人材の活用や地域との交流	○地域人材を各学年で年間1回以上活用する。 ○児童が年間1回以上、地域の行事に参加する。	・公民館、地域団体などとの連携を図り、活動を展開する。 ・「人材リスト」を活用し、地域人材と日常的につながりをもつとともに、地域行事の日時と内容を紹介し、児童の参加を促す。	A	・低学年のいもやし、中学年の田植え、全学年のいちご狩りなど地域の協力を得て、活動することができた。 ・4年生の総合的な学習で、公民館の協力を得て、地域の高齢者の方とのニュースポーツを通じた交流を行うことができた。	A	・本年度も、全学年神集島に行くことができた。特に、3年生の総合的な学習で、豆腐作り活動、4・6年生の総合的な学習で、旧神集島小学校の清掃活動を行った。・公民館見学、鉢植えの花の寄贈など、公民館との交流ができた。	A	・コロナ禍による制限の中、栽培活動や清掃、スポーツ交流などを通して、可能な限り、地域の方とのふれあいができたことはよかった。次年度に継続できる。	
○特別支援教育の充実	○一人一人の個性や特性を生かした指導及び支援の充実	○ケース会議などを充実させ、支援が必要な児童に対して、個に応じた対応ができると答えられる教員を80%以上にする。	○必要に応じてケース会議を開き、支援が必要な児童の情報を共有する。困り感を持つ子どもや保護者に寄り添い、情報感度を高めて校内支援会議を開く。	B	・毎月支援会議を開き、支援が必要な児童の情報を共有しながら対応を話し合った。4月当初に比べ、個々人の困り感が少しずつ解消され、登校がスムーズになったり、落ち着いた生活ができるようになったりしている。	A	・年間を通して、定期的に校内支援会議を開催したことで、困り感を抱く児童への配慮事項を共通理解し、これに基づきながら指導を行った。このことで、児童の安定した学校生活の実現につなげることができた。また、入級の手続きもスムーズに行うことができた。	A	・子供たち一人ひとりを大切にしていける学校の姿勢がうかがわれる。一斉画一的な指導ではない取組がなされている。	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望

重点目標①児童の主体性を伸ばす学習指導の在り方を追究し、学力向上を図ることについては、下学年と上学年のそれぞれで力点を定め、実践に取り組んだ。見通しをもって学習することの習慣化や級友との話し合う場面を意図的に設定したことで、能動的に学習に取り組む姿勢が見られるようになってきた。一方で、児童の「表現力」に関する新たな課題も見られた。来年度は、この点の向上に努めていく。②充実した学校生活を送ることができるようにすることについて、定期的にアンケートを採り、児童の状況の把握を行ったことで、早い段階での対応を行うことができた。また、児童が、学校生活をよくしていくためのスローガンを決め、具体的な活動を行ったことで、「安心して通える学校」を実現することができた。③地域のひと・もの・こととつながり、地域と共に歩む学校をつくるについては、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、本年度も実施方法を変えたり、中止したりせざるを得なかったが、可能な限りの活動は行うことができた。感染症予防をしつつ、できる方法で、地域の方との交流を今後も継続していく。